

東京地区

令和6年度

橋梁技術発表会

講演会

及び

— 伊藤學賞表彰式 —



参加費
無料

定員
650名

申込
先着順

第1部

13:00~13:05 開会の辞 (一社)日本橋梁建設協会 会長 川畑 篤敬

技術発表

13:05~13:40 ① 高速道路橋を2週間の通行止めで架け替え
~首都高速1号羽田線 高速大師橋 約300m区間のリニューアル工事~ 架設小委員会

13:40~14:15 ② 鋼橋床版の劣化と保全について
~コンクリート系床版の点検と補修・補強の留意点~ 床版小委員会

14:15~14:20 休憩

14:20~14:55 ③ プライラ橋の建設工事報告
~東欧最長の長大吊橋建設~ 海外事業委員会

14:55~15:05 休憩

第2部

伊藤學賞 表彰式

15:05~15:35 ① 受賞者紹介 他

15:35~15:55 ② 表彰式

15:55~16:05 休憩

第3部

特別講演

伊藤學賞受賞者講演
16:05~17:05 鋼橋の座屈・耐荷力に関する
二、三の話題

東京都立大学 客員教授 野上 邦栄



17:05~17:10 閉会の辞 橋梁技術発表会 実行委員会 委員長 生駒 元

日時

令和6年

10月4日(金) 13:00~17:10

会場

銀座ブロッサム(中央会館)ホール

東京都中央区銀座2-15-6

申し込み

Webサイト <https://www.jasbc.or.jp/>

受付は令和6年9月4日~9月24日

※申し込みは、Webサイトからのみです。

連絡先

一般社団法人 日本橋梁建設協会
〒105-0003 東京都港区西新橋1-6-11 西新橋光和ビル9階
TEL.03-3507-5225

継続教育

CPDS対象

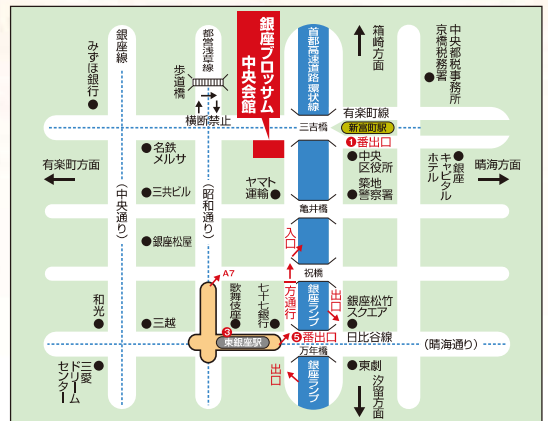
開催地区

- 東京地区: 10月 4日(金)
 - 中部地区: 11月 1日(金)
 - 大阪地区: 10月18日(金)
 - 九州地区: 11月15日(金)
 - 北海道地区: 10月25日(金)
 - 東北地区: 11月28日(木)
- (6地区開催ですが、発表テーマは異なります)


資料配布

会場では配布いたしません。必要に応じてWebサイトより出力し持参願います。9月27日掲載予定

[アクセス]



- 東京メトロ有楽町線「新富町駅」1番出口 徒歩1分
- 東京メトロ日比谷線・都営地下鉄浅草線「東銀座駅」3・5番出口 徒歩8分

主催:  一般社団法人 日本橋梁建設協会
Japan Bridge Association

<https://www.jasbc.or.jp/>

1 高速道路橋を2週間の通行止めで架け替え

多摩川にかかる首都高速1号線(高速大師橋)は、1968年11月の開通から50年以上が経過し、1日約8万台の自動車交通による過酷な使用状況などから、橋梁全体に1200か所以上の疲労き裂が発生していました。構造物の長期的な安全性を確保する観点から疲労損傷が発生しにくく、長期の耐久性と維持管理性を備えた構造の橋梁へ更新(造り替え)を行うこととなりました。本事業では、交通への影響のほか、一級河川・多摩川や近隣住居に対する影響低減が求められたため、仮設の迂回路を設けず、既設橋の下流側に新設橋を架設し、壁高欄・基層舗装を施工した後、既設橋と新設橋を上流側にスライドさせる一括横取り工法を採用し、約2週間の通行止め期間で重さ約4,500t(附属物を含む)、長さ292mの橋梁を一挙に架け替え、その後、表層舗装・区画線等を施工し予定通り供用を開始しました。本発表では新設橋の架設、一括横取り、交通解放まで一連の作業について報告します。

2 鋼橋床版の劣化と保全について

鋼橋のコンクリート系床版は、厳しい環境による経年的な材料劣化や輪荷重による繰返し作用など構造的な要因で、損傷を受けていることがわかっております。このような床版の損傷は、5年に1度の近接目視による定期点検で変状が明らかになりつつあります。これらの背景より、鋼橋におけるコンクリート系床版の種々の点検方法から損傷評価に関する手法を示し、補修・補強工法について、事例を示すとともに、その留意点について説明します。

3 ブライラ橋の建設工事報告

ブライラ橋はルーマニア東部の主要都市であるブライラ市とドナウ川対岸のジジラ地区をつなぐ国道の一部で、ルーマニア国内最長、EU域内では第3位の中央径間長(1120m)の吊橋です。本工事はルーマニア初の長大吊橋になりましたが、日本の高い技術力および上下部工一式のデザインビルドの利点を最大限に活かし、構造形式や施工方法など、品質・工程・コストの最適化を図り設計および建設を行いました。本工事の特徴は以下のとおりです。

- ・ 主塔: コンクリート主塔の施工にスリップフォーム工法を採用。コールドジョイント低減による品質向上および24時間施工による工程短縮。
- ・ 主ケーブル: 日本では3例しか適用事例がないものの、海外では主流のエアスピニング工法による施工。制御運転システムの研究開発による架設効率の改善。
- ・ 補剛桁: 現地造船所での製作による環境負荷低減。架設用ストランドジャッキのモジュール化による設備の軽量化と機動性向上を実現。

特別講演会 講演者紹介

東京都立大学 客員教授 **野上 邦栄**

講演テーマ

鋼橋の座屈・耐荷力に関する二、三の話題

【略歴】

1975年 3月 芝浦工業大学土木工学科 卒業
 1975年 4月 東京都立大学工学部土木工学科 助手
 1998年 4月 東京都立大学大学院工学研究科 助教授
 2005年 4月 首都大学東京大学院都市環境科学研究科 准教授(名称変更)
 2008年 4月 首都大学東京大学院都市環境科学研究科 教授
 2016年 3月 首都大学東京退職
 2016年 8月 首都大学東京 特任教授
 2017年 4月 首都大学東京 客員教授
 2020年 4月 東京都立大学 客員教授(名称変更)
 現在に至る

【講演概要】

これまで大学において、一貫して鋼橋の性能設計、耐荷性能評価技術および維持管理に関する研究に従事してきました。講演では、特に維持管理に関する研究の話題について、最近の研究を含めてお話しします。具体的には、腐食損傷のため撤去された鋼トラス橋格点部の載荷試験と残存耐荷力特性、水平荷重を受ける既設鋼桁橋の損傷挙動と耐荷力評価法および小規模吊橋のハンガー損傷時の構造安全性を考えております。

令和6年度

橋梁術発表会

東京地区

10月4日(金)

参加申込方法▶



一般社団法人 **日本橋梁建設協会**
Japan Bridge Association

ホームページよりお申込み下さい。

<https://www.jasbc.or.jp/>

「技術発表会」の
申し込みはこちら。